

環境土木から水質浄化まで

進化する廃ガラスのリサイクル

ミラクルソル協会
技術講習会

廃ガラスの再資源化による新たなリサイクル技術と製品の普及に取り組んでいるミラクルソル協会(原裕理事長はこのほど、新潟市で技術講習会を開き、写真、発泡廃ガラス材の開発により、循環型社会構築に無限の可能性を拓くミラクルソルのクラスター構想を提案した。すでに環境土木や緑化分野で、軽量盛り土

材と保水性緑化材などの製品化に成功しており、高い浄化能力を利用した廃水処理や河川浄化など水質浄化技術も開発した。地球環境に優しいリサイクル技術として、今後の活用が期待される。

同時に、リサイクル製品の活用により省資源化にも貢献する。

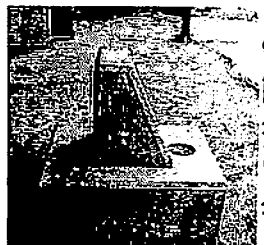
その先頭を走るのがミラクルソル協会だ。

官民共同研究により、発泡ガラスへの再資源化に成功、軽量盛り土材や地盤改良材、保水性に優れた緑化資材など建設資材を中心に製品化。ミラクルソル軽量盛土工法の設計・施工指針を作った。ミラクルソルを軽量骨材として活用する雪崩防止ブロックの作製へと、用途は広がる。

04年度には、ゼオライト化発泡ガラス材による水質浄化技術を確立し、特許出願。05年度から4カ年計画で、このミラクルソル水質浄化技術を用いた有明海生物息環境の俯瞰型再生と実証試験(文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構)が始まっている。

講習会には、官民の関係者多数が参加。北陸地方整備局の穂刈正昭技術調整管理官による特別講演に続いて、原裕理事長が「ミラクルソルを用いた環境緑化工法と環境土木工法について、また同協会顧問の荒木宏之佐賀大学低平地研究センター教授が「ミラクルソルが拓く新しい水質浄化技術」について詳しく解説した。活発な質疑応答も行われた。

問い合わせはミラクルソル協会(東京都中央区東日本橋2、第3成島ビル、電話03・58823・6881)。



雪崩防止ブロック



新潟で技術講習会、クラスター構想を提案

建設廃材の板ガラスや容器廃材の空ビンに代表される廃ガラスの排出量は年間1500万トに達する。容リ法の施行を追い風に、リサイクルの促進が期待されるが、依然として最終処分場に回されるのが大半だ。

廃ガラスの再資源化は循環型社会構築への大きなテーマの一つだ。処分場の負担軽減を通じ地球環境の改善に寄与すると